

【2024年度】児童発達支援事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	ハッピーライフtsunagu				
○保護者評価実施期間	2024年11月20日 ～2024年12月20日				
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0人	(回答者数)	0人	
○従業者評価実施期間	2025年1月15日 ～2025年1月31日				
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数)	4人	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月10日				

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活していくうえでの、衣食住に重点を置きながら平日の余暇活動に取り入れている。	食べれる野菜ができるまでの過程を感じ、実際に手を加えることができるよう工夫している。事業所前やハッピーで借りている畑にもいき、比較できるようにしている。毎日の水やりもみんなのできるよう組み入れている。	農園と事業所前での違いを把握して欲しい。どうしたらうまくできるかを考え、自分たちだけでできるという喜びを一緒に体験したいと考えている。
2	気分転換できる空間作り 外出や、室内遊びなど	外出を多く取り入れ、周りに不快感を与える行動などを自分で実感できるよう声掛けしている。店内などの動きや、公道の動きなど、周りに気を使いながら歩けるよう声掛けしている。金銭の価値が理解できるよう取り入れている。	金銭の価値を把握し、組み合わせを理解して欲しい。おやつ時間にいろんな硬貨を用意しお釣りを作るようにする。いろんな硬貨と一緒に払えるよう工夫している。
3	後片付け	食後のお皿洗いや掃除も自分たちでできるよう声掛けしている。床が汚れていたりすると、みんなできれいにしている。自ら率先して行動できるように活動に組み込んでいる。	ルーティン化できるようにうながし、自ら進んでできるよう取り組みたい。「ありがとう」「ごめんね」成と言われる喜びを理解し功体験につなげる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童同士のやり取り。	一人遊びが好きな児童が多いため、集団遊びや団体行動をさらに増やしていきたい。周りに人がいることを認識し行動できるよう促していきたい。	相手の気持ちを察した上での行動に気を付けるよう声掛けしている。
2	現在はまだ個別でクールダウンするための遊具が少ない。	怪我等の恐れがあるため、遊具には細心の注意を払っている。バランスよく配置するためひとりひとりにあった遊具・療育道具を作成している。	気持ちを落ち着かせ、興味あるものへの好奇心を増やしたい。とことん熱中できるよう、よりそっていくと共に微細運動にも力を入れている。
3	保護者同士の交流の場が少ない。	送迎時、保護者とのやり取りはできている。保護者同士の交流の場として、子どもたちの頑張りが見れるようスポーツフェスタを開催している。	保護者カフェ、保護者が参加できるイベントの企画などを考えている。